

第22回一関地区広域行政組合一般廃棄物処理施設整備検討委員会会議録

- 1 会 議 名 第22回一関地区広域行政組合一般廃棄物処理施設整備検討委員会
- 2 開催日時 令和3年9月29日（水）午後1時30分から午後3時30分まで
- 3 開催場所 一関市役所特別会議室
- 4 出席者
 - (1) 委 員 石川隆明委員長、齋藤清壽副委員長、千葉敏紀委員、小野寺愛人委員、千葉光祉委員、鈴木淳委員、菅原幹成委員、村上秀昭委員、千葉晃委員、菅原彰委員
 - (2) 事務局 小野寺啓事務局次長兼総務管理課長、吉田健総務管理課長補佐兼施設整備係長、石川勝志総務管理課主任主事Web参加 一般財団法人日本環境衛生センター7名（以下、日環センター）

5 議 事

- (1) 施設整備基本計画について
 - ① エネルギー回収型一般廃棄物処理施設
自主基準値について
 - ② 最終処分場
計画放流水質について
- (2) 余熱活用について
- (3) ごみ処理に関する基本方針について

6 公開、非公開の別 非公開

7 協議内容

- (1) 施設整備基本計画について

事務局 本日は、エネルギー回収型一般廃棄物処理施設の自主基準値と最終処分場の計画放流水質について、前回の会議で意見等を踏まえて文言の整理をしたことから確認をお願いします。

（資料No.1、2により説明）

委 員 資料No.1の表2の近隣施設の排ガスの自主基準値と表4の県内施設の排ガスの自主基準値の両方に岩手中部クリーンセンターの記載がある。表2は本文の説明に合わせ隣接自治体のみとし、岩手中部クリーンセンターの記載は削除してよいのではないか。

委 員 表2と同様に、表4にも施設規模を記載したほうがよいのではないか。

事務局 そのように修正する。

(2) 余熱活用について

事務局 前回の会議で説明したワーキンググループからの提案を、簡易的な表にまとめたので、これについて今後の検討の進め方、方向性に関する意見をいただきたい。本委員会では、現段階では、民設民営又は公設民営の場合の事業希望者の調査を行うにあたっての条件整理をお願いしたい。本日晒した条件はたたき台であるので意見をいただきたい。また、現地視察も実施したいと考えている。

(資料No.3により説明)

委員長 視察について特に異論はない。条件整理について、本日の資料は内容がかなり集約されているので、もっと詳細な検討が必要になると思う。

事務局 ワーキンググループからの提案は、調査をして実施の可否を方向づけることが必要と考える。また、他の使途があればそれも含めて意見をいただきたい。

余熱活用の方法は、これまでの説明会では一関市と平泉町で抱えている課題の解決のために使えたら一番良いが、具体的な方法は検討中と説明しており、余熱活用施設をつくることになるかどうか、はっきりとした説明はしていない。地元の意向も聞きながら進めていければと考えている。

委員 新処理施設の建設候補地の検討から始まり、これまで説明をしてきた中で、受け取る側とすれば最先端の技術の新処理施設であり、さらにプラスして余熱活用もできるというような感じに受け取ってきたのではないかと思う。やはりこのような良いものをつくりますという姿勢で臨んでいくことが必要ではないか。それが受け入れられるかどうかはまた次の問題である。

委員 新処理施設の方は余熱活用施設の整備が検討されているが、一方で新最終処分場の方は特にそのような施設の整備が検討されているわけではないので、そのバランスも考えていかなければならないと思う。

委員長 日環センターで把握している進め方の事例等があれば情報提供いただきたい。

日環センター 国の施設整備計画では、ごみ処理施設は、新たな価値を創出するエネルギーセンターとして、地域の課題の解決にエネルギーを利活用していくということが言われている。余熱の利用は、基本的に地域の課題を解決することを考えていくことが必要であり、ワーキンググループ会議でもその方向で検討し提案をまとめているので、まずはこれを検討していくことは必要と思う。

その上で、ワーキンググループ会議の提案を地域の方々がどう考えるかということと、地域住民の視点で見たときに別の観点から利用方法が提案される可能性がある。そのあたりを併せて進めていく必要があると考える。

委員 「地域」の課題とは、建設候補地の地元の課題なのか、一関市や平泉町全体の

課題となるのか。「地域」のエリアを整理しないと、聞いている人それぞれが地域をどこと捉えて聞いているかによって違ってくると思う。

事務局 ここでの「地域」とは、一関市と平泉町という捉え方である。余熱の活用については、建設候補地周辺自治会説明会でも説明するが、一関市と平泉町にお住いのどなたでもお越しいただける住民説明会でも意見をいただきたいと考えている。

委員 余熱活用については、一関市と平泉町全体の話になると思うので、全体にきちんと話をしていく必要があると思う。余熱活用は、民設民営の案を民間事業者が提案してくることもあると思うので、そういうこともしっかり時間をかけて検討し、説明していったほうがよいのではないかと感じた。

委員長 地元への説明として検討を進めていることを伝えていくことも必要であるし、地元組織が設立され、地元の思いが示されればそれは受け止めていく必要がある。また、余熱活用は一関市と平泉町の全域に係るものであるため、何らかの形で全域を対象に説明して意見を聞くということが必要であろうということである。ただし、短期間で地元を示していけるような段階ではないというところだと思う。

事務局 まずは調査が必要と思われるので、視察の段取りを進めたいと思う。

(3) ごみ処理に関する基本方針について

事務局 本日は一般廃棄物の受け入れ基準や分別・収集方法についての考え方をお示したい。今後の検討を進めていくうえでの方向性について意見をいただきたい。

委員 資源物のほか、燃やすごみの減量化も検討していかなければならないと思う。資源物以外のごみは、指定ごみ袋を使うのか。現在は指定ごみ袋を買ってもらっているが、ごみの有料化ということも思い切って検討する必要があると思うので、併せて検討の中に入れてはどうか。

事務局 施設整備に対する国の交付金の交付要件として、ごみの有料化の検討を行うことが必要となるため、今後検討していくことになる。

委員 市町で整理するもの、組合で整理するものがあると思うので確認したい。

1点目は、本年度に一関市一般廃棄物減量基本計画の見直しがある。組合の一般廃棄物処理基本計画は令和5年度に見直すことになっているが、この基本方針は、それを見直す前提で定めていくもの、あるいは今すぐにも見直すために検討しようとしているのか。それとも、この場合は施設整備検討委員会であるので、令和9年度の稼働に向けての整理をしていくのか。

2点目は、現状の清掃センターの分別区分を基礎として分別区分を見直すとのことだが、現状の2つの清掃センターではやり方が違うので、それを手直ししていくということでしょうか。

3点目は、住民から分別が細かすぎて困るという話がよく寄せられる。また、集積所が徐々に遠くなってきているという話もある。分別が複雑化すると、燃えるごみ又は燃やせないごみとしての排出が増えるのではないかと懸念がある。

最後に、燃えるごみの組成分析では、紙類と布類が一番多いと聞いているが、資源物として紙類を全体で集めて分別する、あるいは衣類の分別を図れば、もっと燃やすごみが減ってくるかと思うが、そのようなことは検討しないのか。

事務局 1点目は、基本的に新しい施設の稼働に向けてと考えているが、今からでも運用可能なものは取り入れたらよいと思う。2点目は、2つの施設で細かい点の違いはあるが、今の分別の区分としては大きな違いはないため、これを基礎として考えると、検討の段階で変更点はあるかもしれないが、今の分別区分から大きく変更する必要はないと考えている。3つ目は、分別の種類は、組合だけでは決められないと考えている。住民目線での分別の検討にあたっては、組合と構成市町とでお互いに話し合いながら進めたい。それから、紙類と布類の分別について、分別するかどうか測る物差しが判断基準になる。判断基準を基にして分別区分を決めていくのが良いと考えている。

委員 見直しにより集積所までの距離が遠くなるのであれば、高齢者の方のごみ出しなど、大きな課題だと思う。また、プラスアルファで資源物の拠点集積所の設置、管理となると課題も出てくると思うので、よく検討していく必要がある。

委員 一般廃棄物は市町村が回収するとなっているが、スーパーでも収集をしているところもあるので、スーパーにコンテナを置いてもらい協力をお願いするということは考えられないのか。そのときは指定袋ではなくてもよいはずである。社会貢献にもなるので、民間にも協力が求められると思う。

事務局 結果的にごみが減らせればよいと考えている。スーパーでの回収はそれぞれの市町の考え方にもよるが、そのような方向に誘導するという仕組みもあるかもしれない。施設の新設をきっかけにごみを減らすための取組を検討したい。

委員 本委員会でごみの分別、収集、処理を検討して、施設整備に反映させることが可能な期限はいつ頃までか。

事務局 令和5年度に施設の仕様などを定める要求水準書を固める。施設の規模に影響するので、それまでに決めることとなる。また、令和4年度にはリサイクル施設の施設整備基本計画を策定することから、令和4年度中には形にする必要があると考えている。

委員長 本委員会では、基本方針の作業を進めていくことについて了解をとり、実際の事務は市町にあるので、それを何回かに分けて報告をもらいながら、期限までに

検討を進めていくということで良いのではないか。

事務局 そのようにお願いしたい。また、現在、一関市では減量化計画を策定する時期
ということであるので、それを踏まえて施設の規模を決めることになると思う。

担 当 課 総務管理課